

人々を支える税金

所沢市立所沢中学校

一年 宮下 玲衣

「税金」と一言で言ってもいろいろな種類がある。身近なところだと、お店で物を買ったり、レストランでごはんを食べたりしたあとに支払うお金に含まれる消費税だ。その他にも買ったものがお酒やたばこだった場合には、消費税とは別にさらに税金がかかる。また、働いてもらった給料や毎日生活をしている自分の家、庭にも税金がかかる。そもそも住んでいるだけで、その市町村に税金を支払わなければいけないらしい。大人になり、一生懸命仕事をし、お金をもらっても、そこから税金がどんどん取られてしまうのは何か嫌だな、と税金に対して、私はあまり良いイメージを持ってなかった。

しかし学校で税の勉強をしていくうちに、国や都道府県、市町村は、私たちに豊かで安心した暮らしを提供する、まるでサービス業の会社のような仕事をしていて、税金はそのために必要な資金の一つだと知った。毎日捨てるゴミの処理や普段何気なくつかっている道路や公園の整備から、高齢者への年金、災害時の復旧活動など、さまざまな場面でサポートをしてくれている。助け合いのために使われるのなら、税金を払ってもいいと思えるようになった。

ただ、私たちが大人になる頃には今のようになり少子高齢化が進むと税金で集められるお金が減ってしまうらしい。そう言えば

母が以前所沢の市長は自分の給料を減らして、市のお金を節約している、と言っていた。自分の家でもやっている「家計のやりくり」と言うものを市でやっていてムダ使いをしないように努力して、必要と考えるところに優先的にお金を使ってくれている。

私は公立の学校に通っているが公立の小中学生一人当たり一年間で約百万円の教育費を負担してもらっている。そして、学校の教室にエアコンがついたり、教科書が無料でもらえたりするのも税金のおかげだ。将来少なくなってきたりしてしまうかもしれない税金を、私たち子供のために、たくさん使ってくれている。だから私たちは大人になった時にしっかりと税金を納めなければいけないと思うし、有効に税金を使えるような社会をつくりたいと思う。そして、大切な税金を使って、学校で快適に勉強できるようにしてくれているので、もう少し勉強をがんばろうと思うことができ、背中を押された気持ちになった。